

先進地紹介

# 大分駅周辺総合整備事業について ～100年に一度 県都大分の新しいまちづくり～

茨城県土木部都市局都市計画課 主事 園部 雄基

## はじめに

令和5年10月19日に、都市計画協会主催のまちづくりセミナーに参加しました。

今回、まちづくりセミナーの開催地となった大分市は東九州の中核都市として発展を続けており、「都市景観大賞」、「国際交通安全学会賞」等を受賞した大分駅周辺については、先進的なまちづくりとして注目されています。

本稿において、大分市の取り組みである「大分駅周辺総合整備事業」を紹介します。



した既成市街地ですが、南側は、商業施設も少なく住宅街にJR関連施設や大規模な空地が点在しており、市街地として一体的で均衡ある発展が妨げられています。

これらの課題を解決するべく連続立体交差事業（駅高架化）、土地区画整理事業、関連街路事業の3事業を一体的に実施しました。この事業により、鉄道で分断されていた大分駅南北市街地の一体化が図られ、駅北の商業業務都心と駅南の情報文化都心との役割分担の中で、ゆとりと潤いのある新都心を創出することで県都の顔である中心市街地に大きく変貌しました。

また、ハード面の整備と併せて、まちなみづくりのガイドラインの策定や地区計画の決定、屋外広告物の制限を行うなど、民有空間の良好な景観形成を図るソフト対策を行っています。

## 大分市の概要

大分市は、人口約47.5万人を有する中核市であり、市域は約500km<sup>2</sup>、九州の東端、瀬戸内海の西端に位置しており、北は別府湾、東は豊予海峡に面しています。

明治44年に市制施行し、同年には大分駅が開業しました。しかし、太平洋戦争下大分駅舎をはじめ、中心部一体が焼け野原となり、戦後、大分駅北側で復興土地区画整理事業が施行されました。

高度経済成長期には、新産業都市として、鉄鋼、石油化学など重化学工業を中心に発展を遂げ、人口は1960年代の21万人から1990年代には40万人まで倍増しました。

平成8年度～平成28年度の間、大分駅周辺総合整備事業が実施され、駅の高架化、駅南の土地区画整理事業、新たな駅ビルの開業により、大分の玄関口が生まれ変わりました。



大分駅北側 商業業務都心

## 大分駅周辺総合整備事業

JR大分駅周辺の中心市街地は、鉄道により南北に分断され、都市規模に見合った市街地の形成が阻害されていました。

さらに、車社会に伴う道路交通状況の悪化や駐車場不足などにより将来展望が望めないことから、都市機能の郊外立地が進展し、県都としての魅力、活力低下が危惧され、大分駅北側は、大規模な商業施設の集積



大分駅南側 情報文化都心





① 大分駅付近連続立体交差事業

道路と鉄道を立体交差化することにより、13ヶ所の踏切を一挙に除却し、南北市街地の交通の円滑化を図るとともに、踏切事故の危険性が解消されました。

さらに大分駅に2本の自由通路が設置されたことで南北市街地の往来がスムーズになり市街地の一体化が図られました。

② 大分駅南土地区画整理事業

大分駅付近連続立体交差事業に伴う道路網の再編を行うことにより、南北市街地の一体化や駅周辺街区の有効高度利用が図られました。また、市街地中心部に残された唯一の大規模空地である国鉄清算事業用地や鉄道の高架化に伴うJR操車場跡地を活用することにより、良好な市街地環境をあわせ持つ中心市街地にふさわしい地区が創出されました。

その結果、地区内居住人口が平成7年度から1.6倍に増加し、宅地が2割減少しているにも関わらず、居住人口が増えていることから、人口密度の増加及び、土地利用の増進が窺えます。

③ 庄の原佐野線等関連街路整備事業

南北の市街地の一体化に伴い、事業効果を一層高めることを目的に都市計画道路庄の原佐野線をはじめとした大分駅周辺の幹線道路整備など、道路網の再編を行うことにより、都市交通の円滑化を図りました。

特に都市計画道路庄の原佐野線は、市西部の九州横断自動車道・大分インターチェンジから大分駅南側を経由して市東部に至る重要な幹線道路であり、地域高規格道路として整備されました。

■シンボルロード「大分いこいの道」

大分駅南土地区画整理事業で整備された大分駅南口駅前広場の目の前に位置する幅員100m、延長444mのシンボルロード「大分いこいの道」は、緑溢れる芝生広場を有する市民の活動拠点であり、賑わいや憩いの場として親しまれています。

芝生広場は、ボランティア団体が中心となり維持管理を行っています。



シンボルロード「大分いこいの道」

■おわりに

大分市の人口増加要因については、区画整理事業による土地利用の増進もありますが、全面高架後の平成24年以降の伸びが顕著であると感じました。このことから、住宅整備に加えて、交通利便性が居住地選びにおいて、重要な要素である事を示していることがわかりました。

これらを効果的に行えば、まちの活性化に大きく寄与するハード整備を今後の業務の視野に入れられるよう、区画整理事業等の土地利用と併せて学びたいと感じました。



ホルトホール大分



大分駅北口広場



大分駅南口広場

